

今回の題材は、第一次世界大戦です。第二次世界大戦は、日本人が日本人として経験した最後の戦争です。そして日本は世界唯一の原子力爆弾を投下された国であり、敗戦国でした。国の在り方や平和に対する考え方が、大きく変わらざるを得ませんでした。その為、義務教育の授業においても、厚く時間が割かれていた印象です。一方、第一次世界大戦については、そこまで厚く学んだ記憶が、少なくとも私にはありません。この機会に私自身も学習し直したのですが、多くのことを今更ながらに学びました。2014年4月1日に武器輸出三原則に代わる防衛装備移転三原則が閣議決定しました。これが前進であるのか、後退であるのか、この答えもここにあったように思います。経済の発展のみを求めた結果も、ここにありました。そして、コロナの騒動が、日本に何を齎すのであろうかという私なりの答えも、ここにありました。

私が導き出した結果のお話は、あえて避けましょう。私の立場の本分ではありません。それは皆さんが個々に考えることです。皆さんのお考えを誘導、または扇動したいとは考えていません。それは逸脱です。しかし、「個々に考える材料」を双六にし、提供したいという試みは、私たち「読書会小さな靴あと」の本分です。

歴史の流れを大局的につかみ、尚且つマス絵によって細部を理解する機会を提供し、マスの詳細を添付することによって個々の事柄の深い理解を求める。双六がどこまで戦争の立体性を表現できるのかをサブテーマとして制作に取り掛かりました。双六には、〇〇のマスに飛ぶ、戻るといったイベントがあります。それぞれ意味あって設置しました。意味を考えつつ遊んでいただき、楽しめたならば、きっと内容にも興味を持ってくださることでしょう。

双六読書会 小さな靴あと

